

大きいことはいいことだ、森永エールチョコレート(再考)

同志社大学キリスト教文化センター所長

同志社大学経済学部教授

和田 喜彦

そこで、王は答える。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイによる福音書 25章 40節)

はじめに

キリスト教文化センターの所長を拝命しています和田喜彦と申します。所属は経済学部で、専門分野はエコロジー経済です。持続可能な経済の構築をテーマに研究しています。最近、SDGs が注目されていますが、このテーマをかれこれ 40 年間研究してきました。担当科目は、エコロジー経済、環境と資源の基礎などです。昨年まではミツバチ科目も担当していました。

私のゼミは実践的なゼミでして、ゼミ生たちがウォーターサーバーが本学に1台も無いのは問題だ。ぜひ設置してほしい、と2021年に当時の学長・植木朝子先生宛に提言書を提出しました。植木学長がその意義を認めてくださり、1年後の2022年10月28日に設置が実現しました。自分が所属する大学のサステナビリティに対し良い影響力を発揮できたという体験は、学生たちに大きな自信を与えてくれました。

高度経済成長期に支配的だった価値観:大きいことはいいことだ

今日の話のタイトルは「大きいことはいいことだ 森永エールチョコレート(再考)」とさせていただきます。

「大きいことはいいことだ」は、1967年から(19)68年にかけてテレビで放映されたCMです。このCMには、作曲家・指揮者の山本直純さんが出演し、エネルギッシュな演出とともに、当時の高度経済成長期の「大きさ」への憧れを象徴的に表現しています。55年前の大阪万博の3年前に放送され、聴く者の心をわしづかみした映像でした。60歳以上の人たちは覚えておられると思います。

当時の日本は池田内閣の所得倍増計画などにより、高度経済成長とよばれる時代を迎え、それは1950年代半ばから1973年まで続きました。まさに日本社会全体が活気にあふれ、物質的に豊かになり、一生懸命働けば所得がどんどん増えるというポジティブな雰囲気に包まれていました。

高度経済成長期の歪としての公害

しかし、一方で、高度経済成長による歪みも発生しました。長時間労働や、都市部への人口集中、そして、「公害」などの問題が各地で発生しました。

公害は、公（おおやけ）の害と書きます。有害物質によって水や空気や土壌などの公（おおやけ）の公共財が汚染され、第三者に被害が及ぶ環境問題のことを意味します。

水俣病事件の経緯

ご存じの通り、戦後の公害問題を象徴するのが水俣病事件です。熊本県水俣市のチッソ株式会社水俣工場では、塩化ビニールの原料であるアセトアルデヒドを製造していましたが、その過程で排出された廃液に含まれる無機水銀が有機水銀へと変化し、海の魚介類に蓄積。これを摂取した猫や人間に中枢神経障害を引き起こしました。

水俣病は1956年5月1日に「公式確認」されましたが、その後もチッソによるアセトアルデヒド工場の操業は12年間続けられ、被害は拡大しました。水俣病については多くの学生が中高の歴史や公民の授業で学び、その概要は知っていますが、公式確認から原因物質が政府に認められ、操業停止に至るまでに12年もかかったことはあまり知られていません。

さらに、公式確認から3年後の1959年には熊本大学医学部が原因をチッソ工場の廃液であると科学的に特定していたにもかかわらず、政府はなお9年間にわたり操業を容認し続けました。図1にありますように、アセトアルデヒドの生産量は、1959年以降増減を繰り返し、減少に転じたのは1964年からでした（和田、2023年）。こうした経緯を知る学生は、ごく少数にとどまっています。

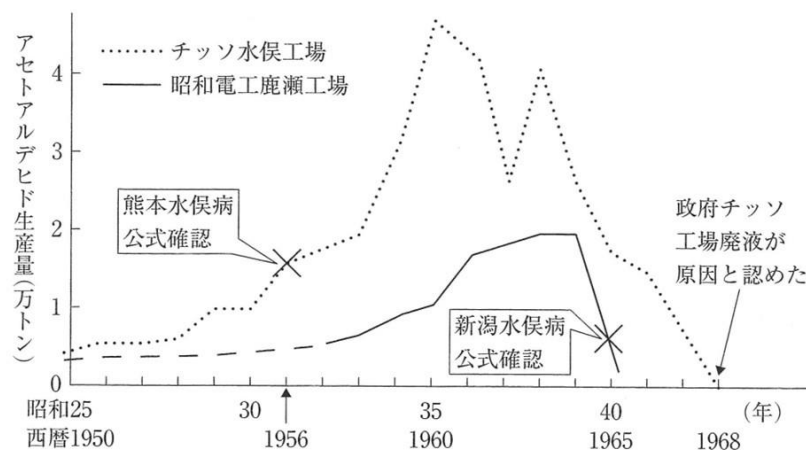


図1 アセトアルデヒド生産量推移

出典：和田喜彦（2023年）「四大公害事件」『平和学事典』（丸善）p. 407.

水俣病の真の原因

当時の通産省（現在の経産省）は、もし操業を続けさせれば、水俣病患者が増え、亡くなる人が増えることを予見しつつ、操業を続行させました。このことは何を意味するのでしょうか。政府は、人々の命を守るよりも、塩化ビニールという化学物質を大量生産させ、日本の経済成長を維持

させることを意図的に選択したということです。

つまり水俣病事件は、単なる過失ではなく、政府の選択、つまり「国策」によるものであったという訳です(栗原、2000年)。水俣病は、「未必の故意」による政府と企業が敢えて起こした事件であるのです(斎藤、2008年)。闘う患者さんであった川本輝夫さんの言葉を借りれば、水俣病事件との真の姿は、政府と企業による「傷害・殺人事件」なのです(高倉、2008年)。さらに、政治社会学者の栗原(2000年)は、生産力維持のための「人を人とも思わない」ジェノサイド(絶滅・皆殺し)の政治が水俣病事件を生み出したのだと断じています。

医師であり、精神神経学者でもある原田正純は、「水俣病の原因のうち、有機水銀は小なる原因であり、チッソが流したということは中なる原因であるが、大なる原因ではない。水俣病事件発生のもっとも根本的な、大なる原因は、“人を人とも思わない状況”いいかえれば人間疎外、人権無視、差別といった言葉でいいあらわされる状況の存在である。」と結論づけている(原田、1989年)。

残念ながらこのような実態を知る学生は多くはありません。

高校までの勉強と大学での勉強の違い

高校までの勉強は、教科書に書いてある定説や先生が説明されることをあるがままに受け入れ、定番でオーソドックスな世界観を大づかみで理解することが重要とされました。しかし、大学生となったら、常識や世間で信じられていることが本当に真実か、という疑問を持ちつつ、現場に行って自分の目で現実を批判的に直視することが重要です。社会が全体として良い方向に進んでいるように見えても、現場に行き、解像度を上げることによって、隠れている真実が浮き上がってくることがよくあります。大学生、とりわけ新入生の皆さんにはこのことを肝に銘じていただけると幸いです。

どのような視点で社会を観察すべきか:小さい者への視点

さて、ここで皆さんに問いたいのですが、現場では、どのような視点で観察すべきか、ということですね。キリスト教主義を標榜する同志社大学で学んでいる皆さんには、聖書に書かれている視点に特に着目してほしいと思います。

本日の聖書箇所「マタイによる福音書」25章、40節は、その意味で非常に参考になります。ここでイエスはたとえ話をしています。

王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』とあります。

ここに出てくる王とは、神様のことです。つまり、世の中でもっとも小さき者・弱い者にしてくれた親切な行為は、神様にしてくれたことと同じで、とても尊いことなのだよ、とイエス・キリストは言っておられます。

つまり、自ら声を上げることができない人々、差別され、虐げられている人たちに目を向け、その人たちに寄り添う生き方こそが尊いのだよ、と教えているのです。

後で一緒に歌います『讃美歌21』の280番にありますように、

虐げられている人を訪ね、友なきものの友となりて、こころをくだいたイエス・キリストのような視点

で世の中を観察したら、新たな真実が見えてくるのではないかと思う訳であります。

公害問題は終息していない

さて、現在、公害問題は解決したと思っている人が多くおられます。しかし、福島第一原発過酷事故から14年経過しましたが、3万人から4万人の人々が故郷に帰る事ができていません。また、新たに懸念すべき公害が起きています。全国の河川や井戸水から、発がん性が疑われる有機フッ素化合物(PFAS)が検出されています。

東京(品川駅)から名古屋までを40分間でつなぐリニア中央新幹線は、86%がトンネルです。北陸新幹線延伸ルートで、比叡山の真下、および、京都市内を通るルートも、深度40メートル以上のトンネルだらけです。トンネル工事によって地下水脈が切断され、水の枯渇や水質の悪化が懸念されています。京都仏教界は「千年の愚行」と言って反対しています。京都府酒造組合連合会や伏見酒造組合も懸念を表明しています。工事が既に始まったリニア中央新幹線の場合、トンネル工事現場付近では、各地で井戸や川の水が涸れたり、地盤沈下という問題が多数発生しています(樫田、2025年)。

さいごに

最後に今日の話を振り返ります。三つのことを申し上げました。

一つ目。高度経済成長期には「大きいことはいいことだ」という大量生産の価値観が幅を利かせていたこと。当時、日本は物質的に豊かになりましたが、一方で深刻な公害も発生したこと。

二つ目。全体的なトレンドを観ると同時に、大学生になったら解像度を上げて物事を批判的に観察することが重要であるということ。その際、同志社大生には、聖書にあるように、「小さき者」に注目することを期待していること。

三つ目として、公害はまだ終息していないこと、かつ新たな公害が発生していること。

以上の点について話をさせていただきました。これらを、頭の片隅に入れつつ、勉学に励んでいたできれば幸いです。

お集まりの皆様の同志社大学での学びが、神様によって豊かに導かれますようにお祈りしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

祈祷

お祈りいたします。

神様、本日、私たちをチャペル・アワーに集めてくださいましたことを感謝いたします。

学生・教職員、地域の皆様がチャペル・アワーを通して、イエス・キリストの考え方や信念、生き様を学び、自分なりの道德観、倫理観を身に付けることができますようにお導きください。

新学期が始まり1か月半が経ちました。もし、勉強や人生についての悩みや不安を抱えている人がここにおりましたら、あなたからの力強い励ましをその方にお与えください。

この祈りを主イエス・キリストのみ名によって御前にお捧げいたします。アーメン

<参考文献>

榎田秀樹(2025年)『最新報告 混迷のリニア中央新幹線』旬報社。

栗原彬(2000年)「序章:死者と未来の者のほitoriからー水俣病患者が語るということー」栗原彬(編)『証言 水俣病』岩波書店。pp. 1-26。

斎藤恒(2008年)「第11回:新潟水俣病の経験と出生前後メチル水銀汚染児の調査」原田正純・花田昌宣編著『水俣学講義』(第4集) 日本評論社。pp. 271-299。

高倉史朗(2008年)「第9回:水俣に住んで三〇年」原田正純・花田昌宣編著『水俣学講義』(第4集) 日本評論社。pp. 215-246。

原田正純(1989年)『水俣が映す世界』 日本評論社。

和田喜彦(2023年)「四大公害事件」『平和学事典』 丸善。pp. 406-407。